

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）

個人研究

2021年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職名	氏名
	観光学部 助教	宮崎 友里
研究課題	地方自治体の心理的課題解決策としての観光：岡山の桃太郎伝説活用に至る地方政治過程	
研究期間	2021年度	
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 312,650円 / (採択金額) 313,000円	

研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフは使用しないこと。)

現在、桃太郎伝説は岡山を代表する観光資源となっている。しかし実際には、桃太郎伝説は広く各地に伝わり、岡山市に特定される昔話ではなかった。本研究は、1960年代から1970年代にかけて岡山県や岡山市がそれぞれ桃太郎伝説を観光資源化した必要性が何であったのかを明らかにする試みである。行政資料、県知事や市長の発言、地域教育教材を収集し、当時の岡山における桃太郎伝説がどのような意味をもつ題材であったのかを調査する。また社会的背景を理解する手掛かりとして郷土愛好団体などが出版した郷土資料も調査する。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[観光政策] [地方自治体] [岡山]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、2021年4月提出した申請書に基づき実施したものである。研究活動は、申請の採択連絡を受けた6月から、翌年3月にかけて実施した。

なお、申請書には現地調査の予定日程を8～9月と記載したが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、当初の予定を延期した。実際に現地調査を行ったのは10月であった。この点が、申請書に記載した内容と、実際の研究活動の相違点である。

<2021年6月～9月：研究環境の整備と文献調査>

採択連絡を受けた6月から研究活動を開始した。この段階で着手したのは、研究環境の整備と、事例研究と理論研究に関する文献の収集である。

① 研究環境の整備

まず、文献調査のメモを作成管理し、また今後の研究活動に利用するためのパソコンを1台購入した。そのパソコンは研究室内に設置した。また研究期間を通して、消耗品は必要に応じて適宜、購入手続きを取っている。

② 文献調査

立教大学図書館に所蔵されている岡山研究、桃太郎研究の文献を収集した。そこで引用されている重要文献を学内外から収集した。学外から収集する際には、立教大学図書館経由で文献複写と現物貸借の制度を利用した。加えて、インターネット経由で文献の購入も行った。

同時に、理論研究に関する文献を収集した。これに関しても、まずは立教大学図書館に所蔵されている文献を収集することから着手した。加えて、インターネット経由で英語文献を含む関連文献の購入を行った。

以上の通り、6月～9月は文献の収集に注力した。文献を購入した際に、一部の文献が定価を超えるプレミア価格がついていた。それら文献は、本研究を進めるにあたり必要文献であったため、購入の理由を明らかにしたうえで、購入した。

<2021年10月前半：現地調査の計画作成>

6月から9月にわたり実施してきた文献収集であるが、岡山を来訪しない限りは入手困難な文献が存在することが判明した。それは、行政資料と郷土資料である。よって、予定される現地調査においては、行政資料と郷土資料を収集することを主目的として設定した。

加えて、桃太郎観光を象徴する施設は岡山県内に複数あるが、時間が許す限り、フィールドワークとして来訪することを予定に組み込んだ。

<2021年10月22日～24日：現地調査>

① 資料収集

岡山市内で調査を開始した。来訪先は、岡山県庁議会図書室、岡山市役所議会図書室、岡山市役所議会資料室、岡山市役所情報公開室、岡山県立図書館、岡山市立幸町図書館ある。なお、岡山市立中央図書館にも訪問を試みたが、工事中で入場不可であったため、アクセスのみ確認した。

・岡山県庁議会図書室では、主に議事録を読ませていただいた。その他の行政資料も読ませていただいた。また、職員の方に、資料調査の相談もさせていただいた。

・岡山市役所議会図書室と、岡山市役所議会資料室でも所蔵資料をざっと確認させていただいた。

・岡山市役所情報公開室では、関連資料に目を通し、その一部についてはコピーを取らせていただいた。

・岡山県立図書館では、郷土資料は非常に充実しており、時間をかけて資料収集を行った。また職員の方から、他の資料収集先に関する情報を教えて頂いた。

・岡山市立幸町図書館でも、郷土資料の蔵書状況を確認した。

② フィールドワーク

また、フィールドワークとして、岡山の桃太郎観光を象徴する施設を訪れた。一つは、吉備津神社、もう一つは吉備津彦神社である。さらに、JR岡山駅構内の土産物店も視察した。

吉備津神社は、桃太郎伝説の主要登場人物である鬼にまつわる伝説が残っている神社である。もう一つの吉備津彦神社は、たとえば七五三行事が大々的に行われるなど、地域を代表するような神社である。この二つの神社を来訪した。この二つの神社はそれほど遠くなく、半日で二つの神社を効率的に調査することが出来た。

さらに、岡山観光の拠点となるJR大岡山駅には、桃太郎に関する土産物が多く取り扱われている。桃太郎をテーマとする物品に関して、視察を行った。

研究成果の概要 (つづき)

<2021 年 11 月 2 日：研究助言>

10 月の現地調査で収集した資料とフィールドワークを踏まえた、研究の中間報告を研究者に対して行った。これに対して、研究者からの助言を受けた。この研究助言に対して、研究助言費を支出した。助言内容は、事実の集合体を考察する際に、岡山の歴史が理論枠組みの重要な要素として組み込まれるのではないかというものであった。

<2022 年 12 月～1 月：理論枠組みの検討>

11 月の助言を受けて、文献の追加調査を行った。また、これまで収集してきた資料を整理し、理論的な説明枠組みについて検討した。その結果、他地域の事例との比較考察を行うことが適切であると判断した。そこで、他事例の先行研究を読み込み、それとの相違点や共通点について整理した。

<2022 年 2 月 3 日：研究助言>

岡山の事例と他の地域の事例との比較考察を整理したものを、研究者に対して報告した。これに対して、研究者からの助言を受けた。この助言に対して、研究助言費を支出した。助言内容は、理論枠組みの示し方についてであった。複雑であった当初の理論枠組みに対して、単純化する方法について助言を頂いた。

<2022 年 2 月半ば以降：総括と残された課題の整理>

6 月から実施してきた調査活動と、研究者からの助言、また理論枠組みの検討を通して、研究活動の取りまとめ作業を行った。

① 総括

まず先行研究の整理に基づき、事実関係をまとめると次のようになる。岡山の桃太郎観光が開始されたその背景には、1930 年代の桃太郎伝説岡山舞台説を説く書物があり、これが岡山下で話題となっていた。しかしながらその後、桃太郎が戦意高揚に利用されたという史実に対して、終戦後の岡山のみならずひろく日本において桃太郎を利用することは困難であった。その後、日本がもはや戦後ではないと謳われたころから、1960 年代には岡山では桃太郎を利用したイベントを開催するようになった。それが今日に続く岡山桃太郎観光の始まりであった。この事実関係を整理した代表的な先行研究は、加原 (2001 ; 2003 ; 2004 ; 2006) である。

この事実関係に加えて、本研究が調査の結果明らかにできたのは以下の通りである。桃太郎の活用を開始した際のキーパーソンの自伝的書籍や近い人物らがそれぞれ書き記した書籍群、また当時の議事録を確認したが、岡山に桃太郎が必要であるとする明快な理由づけを見つけることは困難であった。しかしながら、岡山県の観光関連の行政資料を調査した結果、近隣の広島や神戸と比較して、岡山のイメージが乏しいという認識があったことが判明した。ここから判明することは二つある。一つは、岡山県が岡山観光を検討する際の視野の範囲である。もう一つは、イメージが乏しいという認識が存在していたことである。(ただし、岡山に向けられたイメージについては、先行研究に基づけば、「イメージが乏しい」ことは事実ではなかったことを指摘することが可能である。この点の事実関係の検討は翌年度以降の研究機会に委ねることとする。)「イメージが乏しい」岡山にとって、桃太郎伝説は全国各地に舞台候補地が存在する通り、イメージしやすい題材である。すなわち、岡山下において存在した「イメージが乏しい」地域であるとする地域像に対する解決策として位置づけられる。これが、岡山下において桃太郎伝説が重要であった理由なのではないかと推察される。

この研究成果の一部について、2022 年 5 月の日本行政学会で報告する機会を得ている。

② 残された課題

1930 年代以降、岡山下には桃太郎伝説岡山舞台説が存在していたが、それを岡山行政が利用するか否かは、岡山の置かれた状況に依拠していることが推察できる。その状況とは、「イメージが乏しい」ことが重要なこととして浮かび上がった状況や、あるいは何らかの事情で「イメージが乏しい」状況に変化したことが考えられる。いずれにせよ、岡山の置かれた状況について考察を加えるとするならば、関連する先行研究 (宮崎 2019) からの示唆が有用であると推察される。

翌年度の研究費に採択されており、この残された課題を中心として、研究を継続することが出来る。

※この(様式 2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)

②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)

③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)

④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

④ その他

・学会報告

日本行政学会 2022 年度研究大会 口頭報告 (2022 年 5 月 21・22 日のいずれかで報告)

アブストラクトは近日中にホームページ上に公表

学会報告論文を 5 月上旬に提出予定

→この学会報告論文を、投稿論文に修正予定

・研究会報告 2 件